

園内バス 運行開始!!

この度、来園者が、安全かつ快適に園内を移動できることを目的とした園路整備を行い、移動手段として園内バスの運行を開始いたしました!

園内バスの紹介

かわいい園内バスが2台あります。

コアラ号

コアラをモチーフにしたコアラ号!
車椅子に乗ったまま乗ることができるリフトを
搭載しています!



内装も
かわいい
でしょ!



ホワイトタイガーを
モチーフとしたオリジナ
ルキャラクター、「ホワイ
ティ」がバスになりまし
た!



ホワイトティ号

ベビーカーの
収納スペースは
どちらのバスにも
ありますよ!



運行コースの紹介

園内のコースは現在2コースで運行しています。詳しくはHPをご覧ください。

※あくまでも移動手段です。動物たちをバスの中からゆっくり見ることはできませんのでご了承ください。

園内周遊コース

主に平日の運行。雨天時や閑散期などは土日も運行します。
園内に設定されたコースを約20分かけて移動します。
サイ舎→アシカプール→サル舎→シカ舎→オーストラリアの自然ゾーン→コアラ館→ふれあいランド→アシカプール→時計台のコースで運行します。
※サイ舎とふれあいランドでのみ乗車できます。
※利用者が多い場合、途中で降りていただくことがあります。

園内各所
にあるバス停が
目印です!



外周コース

主に土日の運行。団体の多い日や繁忙期などは平日も運行します。
行き: 時計台→シカ舎→は虫類館→ゾウ舎→ふれあいランド
帰り: ふれあいランド→ゾウ舎→は虫類館→シカ舎→時計台のコースで運行します。
※時計台とふれあいランドでのみ乗車できます。

新しくなった鹿児島市平川動物公園を、

園内バスに乗って快適に過ごして

くださいね。

ず〜 ZOOっと平川



特集1

ヤクシマザルがやってきた!

特集2

リニューアル完了



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1
TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328
■開園時間: 午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)
■休園日: 12月29日~1月1日
URL <http://hirakawazoo.jp/>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>
Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>

動物取扱業の種類: 展示 登録番号: 生衛動取 第357号 登録の年月日: H28.5.11
有効期間末日: H33.5.11 動物取扱責任者: 桜井普子

携帯サイトへ
アクセス!



編集・発行



公益財団法人 鹿児島市公園公社

〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号
TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690
URL <http://k-kouenkousya.jp>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

ヤクシマザルが やってきた!

鹿児島県が誇る世界自然遺産・屋久島。そこで暮らすニホンザルの亜種、ヤクシマザルが日本モンキーセンターより来園しました!
ヤクシマザルを展示している動物園は日本では沖縄こどもの国、愛知県犬山市にある日本モンキーセンター、そして平川動物公園だけです。
新しくオープンしたニホンザル舎と、そこに仲間入りしたヤクシマザルたちをご紹介します!



ヤクシマザル 学名: *Macaca fuscata yakui*
霊長目オナガザル科 英名: Yakushima macaque
ニホンザルのうち、屋久島に生息する固有亜種※。
ホンドザルに比べて小柄で、体毛が長く、色は暗褐色。
昼行性で、複数のオスとメスで50頭以下の群れを作って生活します。いわゆるボスザルは存在せず、群れは母系集団です。オスは大人になると生まれた群れから離れて別の群れに入ったり、遠距離を移動して生活するとされています。
また、ヤクシマザルは群れと群れの間で優劣関係があり、遭遇すると群れ同士で争うことが確認されています。

【亜種とは?】同じ種でも分布する地域により色や形に違いがみられ、地域間で異なると判断された集団です。離島など他の地域と分断された場所に多く見られます。
「ニホンザル」には2つの亜種がいて、屋久島に生息する「ヤクシマザル」と本州・四国・九州(屋久島を除く)に生息する「ホンドザル」に分類されます。

ここに注目! ニホンザル舎



屋久島の豊かな水源を再現!

展示場内の大きな岩、実は滝が流れるようになっており、水が豊かで湿気の多い屋久島の環境を再現しています。

夏は水、そして冬はなんと温泉が出るようになってます!
※ちなみに野生のヤクシマザルは温泉に入りません。温泉に入ること有名なのは長野県地獄谷のホンドザルです。



個体の関係

豊かな社会性を持つニホンザルたちは、相手によってみせる行動も様々です。毛繕いの他に、順位を確認するために自分より強い相手におしりを見せたり、強い個体がその上に乗るマウンティング行動がよく見られます。サルたちの順位や関係が見えてくると、観察がますます楽しくなりますよ。

比べてみて! ホンドザルとヤクシマザル



▲ヤクシマザル

平川動物公園ではホンドザルも飼育しています。
ヤクシマザルはホンドザルに比べて体が小さく、当園の個体を比べてもホンドザルのマサルが体重10kgに対し、ヤクシマザルでいちばん大きなノンタでも体重8.5kgしかありません。体の大きさ以外にも、ヤクシマザルは体毛が長く、目つきがキリッとしているなどの特徴がありますので、見比べてみてください。



ホンドザル▶

平川動物公園のヤクシマザルたち



ノンタ
2010年4月13日生まれ

いちばん体の大きいオス。食いしん坊でやんちゃ。群れのことはまだまだ無関心の子どもっぽい性格。



チョコ
2012年4月14日生まれ

真っ赤な顔が特徴のメス。食いしん坊で強気な性格。年下のダンゴにちょっかいを出してヒナタとピーチによく怒られている。



ヒナタ
2012年5月1日生まれ

まだまだ幼いかわいい顔をしたオス。優しくよく気が利く性格で、他のサルがケンカを始めるとすぐ仲裁に入る。



ダンゴ
2013年4月12年生まれ

いちばん小さいメス。両頬の毛がないのが特徴。おてんばでとっても身軽。展示場をぴょんぴょん元気に跳び回っている。



ピーチ
2008年4月12日生まれ

最年長のメス。普段はおっとりしているけど、群れの順位には厳しい。群れのもため役をしてくれる。



現在屋久島には 20,000頭近いヤクシマザルが生息しているといわれています。

しかし、過去に屋久島では、伐採や針葉樹の植林により広葉樹が減少し、サルのエサが不足したり、畑を荒らす「猿害」のために駆除されて生息数が減少したこともありました。現在では畑を電気柵で守るなどして、島民と共存するための取り組みが進んでいます。世界遺産の森にすむヤクシマザルに、ぜひ会いに来てくださいね。

担当者: 堤、望月



▲屋久島に暮らすヤクシマザルたち

リニューアル完了！ これまでの7年を振り返ります

平成21年度から7年計画で進めてきたリニューアルが今年の春完了し、5月31日に「リニューアル事業完成記念式典」が開催されました。式典には森博幸鹿児島市長をはじめ、リニューアルに携わってくださった方々、福平保育園の園児の皆さんが出席してくださいました。また、式典の後には園内バスの出発セレモニーも行い、皆さんにお祝いいただきました。



▲「アイアイ」と「きりんさん」を歌ってくれました♪



▲出発進行～！

さて、「ZOOっと平川」では創刊号からリニューアルした施設の紹介や、それに伴う動物たちの引っ越しについて紹介してきました。ここで改めて、これまでのリニューアルを振り返っていききたいと思います。

リニューアルの背景

前身である鴨池動物園から、ここ鹿児島市平川町に移転してきたのは昭和47年10月。今年で44年目となる平川動物公園ですが、平成18年度に「平川動物公園再整備基本計画」が、平成19年度に「平川動物公園再整備基本設計」が策定され、平成21年度にリニューアル第一期工事が始まり、桜島の眺望や地形を活かした「南国鹿児島らしい特色ある動物公園」、動物たちがいきいきと生活することができる「どうぶつにやさしい動物公園」、そして、来園者の方々が快適な時間を過ごすことができる「人にやさしい動物公園」を目指し、施設の老朽化、動物の飼育環境の改善、園路勾配の解消等に考慮しながら、11のゾーンとその他の施設でリニューアルを進めてきました。

平成21年度～アフリカの草原ゾーン～

桜島をキリマンジャロにみたてたこちらのゾーンは当公園の目玉の一つ。キリンと同じ目線で観察することができる観覧デッキがリニューアルされたのに加え、カバが新たにやってきました！上からはカバのガッシリとした体形が、下からは間近にカバを観察することができるようになりました。



キリンやサイ、シマウマなどの混合展示も目玉です



近い！大きい！

平成22年度～世界のクマゾーン～

ホッキョクグマやマレーグマなどの体の作りや食べ物を比較することができます。ホッキョクグマが泳ぐ姿を見ることができるプールは、迫力満点です！また、ハチミツが好物のマレーグマの展示場では、ガラス面に擬木を置くことで長い舌でハチミツをなめとる様子をご覧くださいませ。(マレーグマのハニータイム：毎週土日14時～)



泳ぐ姿を見るならやっぱり暑い日がおススメです！



必死にペロペロ

平成23年度～インドの森ゾーン～

ゾウの魅力を様々な角度から知ることができます。水浴びや砂浴び・泥浴びが大好きなゾウのために、プールがある展示場と土を敷いた展示場があり、夏はプールで豪快な水浴び姿を、乾燥する冬や大雨の日は砂や泥を自分の体にかける様子を観察することができます。また、展示場の床には体重計が埋め込まれており、ゾウが乗ると体重が表示される展示や、イベント時にはエサを与えることができる「シューター」など、とにかく盛りだくさんです！



水浴びも豪快です



ゾウの鼻息、感じる事ができたかな？

平成23年度～野生のイヌ・ネコゾーン～

なんといっても、大きなガラスビューが目玉です。迫力ある動きはもちろん、のんびりすごしている時は体の細部まで観察することができます。また、ジャガー舎では2つの展示場をつなぐ渡り木をクロジャガーのボスキが渡ります。ジャガー舎を通る時は、頭上をチェック！大きくがっしりしたボスキの足をぜひご覧ください。



トラがこちらに向かってくる！



見上げると…！！



肉球が大きい！！

平成25年度～不思議な動物ゾーン・猛禽類舎もうきんるいしゃ～

現在はオジロワシのペアや、日本では当園と名古屋市の東山動植物園でしか飼育されていないトキイロコンドルを展示している猛禽類舎。オジロワシの展示場には飼育スタッフ手作りの大きな巣があったり、トキイロコンドルが茂みをごそごそ進んでエサのニワトリの内臓を食べる…。動物の不思議を垣間見ることができます。



自然界では死肉等を食べます

トキイロコンドルのサラ▶

平成27年度～世界のサルゾーン・チンパンジー舎～

オランウータンの擬木をさらに超える、高さ10mのタワーが3本。ソテツなどの豊かな植物やガラスビュー、そして彼らの息づかいや匂い、足音を感じることができます。チンパンジーがより自然に近い環境で生活でき、来園者の方々にその生活を知っていただくための工夫が詰まった施設です。



空中散歩！



チンパンジーも興味津々！？

平成25年度～世界のサルゾーン・オランウータン舎～

高さ9mの擬木ぎぼくと、それらをつなぐロープ、擬木に設置されたデッキ。オランウータンのポピーはこれらを存分に楽しみながら、悠々と生活しています。枝葉を拾ってデッキに運び、ベッドを作る様子や、イベントの際には飼育スタッフが工夫して作ったエサを食べる様子を観察することもできます。



寝心地のよいベッドができるかな？



竹筒の中を覗き、考え中??

平成27年度～オーストラリアの自然ゾーン～

今回のリニューアルの中で、最も間近で動物を観察できるのでは！？展示場の中に通路がある「ウォークスルー方式」を取り入れた展示場です。オオカンガルー、ベネットアカクビワラビーは通路に出てきてくつろいでいる時もあるほど！驚かさないうようにそっと近付けば、袋の中から顔をだす子どもも観察できます。オーストラリア特有の「有袋類」の子育てや子どもの成長をじっくり観察してください。



目の前に！



お腹の袋に注目！

平成26年度～世界のツルゾーン～

鹿児島県出水市の出水平野は世界有数のツルの飛来地ひらいち。毎年約10,000羽以上のツルが飛来します。このゾーンでは、様々なツルを比較していただくことができます。繁殖にも積極的に取り組んでおり、抱卵や育雛の様子を観察することができる場合も！



これもツル！？ホオジロカンムリヅル



背中でヒナを守ります。アネハヅル

その他のリニューアル

園内2ヶ所には天然温泉の足湯が登場。食堂デッキやエレベーターも整備しました。



足湯で一息…

そして「Zoo っと平川」の前号で紹介したふれあいゾーン、どうぶつ学習館や売店、今号でも紹介している新二ホンザル舎が今年の春オープンし、完了となりました。「さあ、舞台は整った！」来園者の方々が快適に過ごせるよう、動物たちが健康に過ごせるよう、そして動物の魅力を多くの方々に知っていただけるよう、ここからが本番！という気持ちでがんばってまいりますので、これからの平川動物公園にどうぞご期待ください！

動物園の取り組み 生息域外保全 ～ルリカケスを守る活動～

平川動物公園では平成26年に約5年ぶりとなる、ルリカケスの飼育を再開しました。

羽のコントラストがきれいで特徴的です▶

こんな動物

カラスの仲間分類される鳥で、世界中で鹿児島県の奄美大島・加計呂麻島・請島のみで生息しています。鹿児島県の「県鳥」として有名です。名前の通り、美しい瑠璃色の羽をもっています。鳴きまね上手で多彩な鳴き声を発することができます。

ルリカケスは南西諸島の奄美大島、加計呂麻島、請島のみ分布しています。これらの地域には人によって持ち込まれた外来種のファイリマングースが生息しており、ルリカケスをはじめとする多くの固有種がその被害にあっています。ルリカケスは現在、野生下で2,000～3,000羽程度しか生息していないとされており、絶滅が危惧されています。

そのため、生息域内ではマングースからルリカケスを守るための保全活動が盛んに行われています。罾を用いたマングースの捕獲や、探検犬による捜索など様々な活動が行われており、その結果、マングースの数は確実に減り、ルリカケスなどの在来種の数は徐々に回復してきています。



▲探索犬チーム全員集合 写真提供：環境省奄美自然保護官事務所



▲罾点検作業風景 写真提供：環境省奄美自然保護官事務所

動物園では生息域外保全活動として、ルリカケスを飼育し繁殖させることで、数を増やしていく取り組みをしています。現在ルリカケスを飼育しているのは、東京にある恩賜上野動物園と平川動物公園の2園だけです。平川動物公園にいるルリカケスはオス2羽とメス1羽で、全て上野動物園から来園した個体です。



▲ルリカケスは東京から飛行機に乗ってやってきました



▲オス1羽とメス1羽はペアで飼育しており、とても仲良しです

生息域外保全活動は動物園の大切な役割の1つです。動物を絶滅の危機から守るためには、生息域内の保全活動と同時に、生息域外でも保全活動を行うことが非常に重要です。過去の繁殖経験を現在飼育中の個体に生かし、来シーズンの繁殖期に向けて準備を行っています。今後は、安定飼育を目指し、繁殖させることでルリカケスの保全に繋がっていきたいと思います。

教育普及活動の紹介



この春、リニューアル事業の一環として「どうぶつ学習館」が完成しました。図書コーナー・レクチャールームなどを備えたこの建物は、平川動物公園における教育普及活動の拠点となることが期待されています。また、教育普及活動をより充実させることを目的として、教育普及係が新たに設けられました。どのような活動を行っているのかを簡単にご紹介しましょう。

この春完成した「どうぶつ学習館」▶



園内団体向けプログラム

幼児から大人までを対象とし、団体向けのプログラムをご用意しています。事前の申込みとご相談が必要となりますが、様々なご要望にお応えしています。これまでに実施した例としては、次のようなものがあります。

①レクチャー

動物を観察しながら、または「どうぶつ学習館」内での解説を行います。画像や標本を活用して、動物たちをより深く理解してもらえるよう工夫しています。また、動物園のスタッフが日頃どのような仕事をしているのかをお話しすることもあります。



▲飼育員による「サイのお話」

②バックヤード見学

日頃見ることのできない動物園のバックヤード(裏側)には、どんな工夫があるのでしょうか?動物たちが快適に暮らすことができ、飼育員が安全で能率よく働くことができるヒミツを実際に見てみましょう。



◀ゾウ展示場のバックヤード見学

園外団体向けプログラム

鹿児島市内の学校や公民館などに職員が出向き、動物と動物園の魅力について写真や動画はもちろん、標本や飼育道具を使いながらわかりやすくお話しします。体力的に外出することが難しいお年寄りにも「動物園に行ったような気分になれた!」と喜んでいただいています。また、動物公園見学のための事前学習や事後学習としてのお話も可能です。動物への理解をより深めることができますのでお勧めしています。※現在は鹿児島市とその周辺を対象としております。その他の場合はご相談ください。

動物園の歴史のお話で盛り上がることも!▶



実習生

大学生・専門学校生の飼育実習・学芸員実習、中高生の職場体験など、幅広い年代の方々に体験を通じた学びの場を提供しています。教職員の方々の研修にも対応しています。

平川動物公園では「楽しく学べる」場として、さらに充実させた教育活動を行ってまいります。ご期待ください。

職場体験の中学生が標本解説に挑戦中!▶



※団体向けのプログラムや各種実習については、平川動物公園 教育普及係までお問合せください。

イベント実施報告

知っていましたか!? 動物園は博物館!! ～国際博物館の日 in 平川動物公園～

国際博物館会議では、5月18日を「国際博物館の日」としています。そこで平川動物公園では5月14日(土)から5月22日(日)までの期間、「国際博物館の日 in 平川動物公園」を実施しました。期間中は毎日、パネル展示、先着20名の方にポストカードのプレゼント、国際博物館の日クイズラリーなどを行いました。

また、5月14日(土)と21日(土)には学芸員のお話「動物園は博物館!～動物園の歴史と役割～」とワークショップ「標本ラベルをつくろう!」を実施し、参加者の方に動物園とはどのような施設なのかを知っていただける解説や、自分で採集した鳥の羽の標本ラベルをつくってもらったイベントを行い、動物園の新たな一面を知っていただきました。



▲動物園は博物館なんです! 知っていましたか?



▲素敵な標本ラベルができました!

鳥について知ろう! 愛鳥週間イベント

5月10日～16日は、鳥の正しい保護について広く知ってもらうための愛鳥週間でした。春先になると迷子と勘違いされ、保護されてしまうヒナが目立つため、今回のイベントでは鳥の生態や保護について知っていただくことを目的としました。当公園で取り組んでいるルリカケスの生息域外保全や傷病鳥獣救護についてのお話、世界でも有数のツルの飛来地である出水市の出水平野にちなんだツルのお話、簡単な実験ができるワークショップなど盛りだくさんでした。鳥ってどんな動物?と尋ねると、卵、羽、嘴など…たくさんの方が返ってきますが、野生下の現状や生態など、まだまだ知られていないこともたくさんあります。

面白い生態や特徴が詰まった鳥の世界を、そして彼らの正しい保護についてこれからも多くの方に知っていただけるよう、情報を発信していきたいと思っております。



▲世界にはばたく! ツルのお話です!



▲紙芝居「わたしのことり」の読み聞かせも行いました。

動物たちの歯はどうなっているのかな? 歯と口の健康週間イベント

6月4日～10日は歯と口に関する正しい知識を普及啓発することを目的とした歯と口の健康週間でした。これにちなみ、6月4日(土)、5日(日)に「動物たちの歯はどうなっているのかな?」を実施しました。今年はカバ、コアラ、インドゾウ、クロサイ、ミシシッピーワニ、ホワイトタイガー、ブラジルバクの7種類の動物で、飼育員から歯の使い方や特徴を聞きながら実際にエサを食べる様子を観察してもらいました。肉食動物は「食いちぎる」タイプの鋭い歯、草食動物は「すりつぶす」タイプの平らな歯を持つなど、実際の頭骨標本や歯の標本を手に取り、観察することで理解が深まったのではないのでしょうか? 私たちにとっても動物たちにとっても、食べて生きていくために歯が健康であることは大切です。飼育員が動物たちの健康のために歯のチェックを欠かさないと同じように、皆さんも自分の歯のチェックを行ってくださいね!



▲歯に異常はないかな??



▲ユーカリをすりつぶして食べるので、色素で黒くなるよ



青少年のための科学の祭典2016に参加しました! 7月23日(土)、24日(日)

毎年、鹿児島市立科学館で行われている本イベント、今年は「動物園のこの声だーれだ?」と題して動物園の動物の鳴き声を聞き、動物の写真カードの中からどの動物が鳴いたかを当てるクイズゲームを実施しました。正解したらカードに動物の情報を記入し、自分の物に! その動物の声がどのような仕組みで、どのようなときに出ているかを知ってもらうことができました。ゲームに参加された方は普段聞くことが難しい動物の声を聞いて、驚いていました。科学の祭典は参加する子ども達が、直接「見て」「触れて」「感じ」「考える」ことができる自然の事物や現象、創意と工夫を凝らした実験や工作を通した体験型のイベントです。動物園では今後も動物の「ふしぎ」をどんどんお伝えしていこうと思います。



▲動物たちはどんなときに鳴くのかな??



▲声が出る仕組み、わかったかな?